

言語障がい通級指導教室「自立活動」(発音指導)学習指導案

日 時 平成29年11月7日(火) 5校時

場 所 ことばの教室

指導者

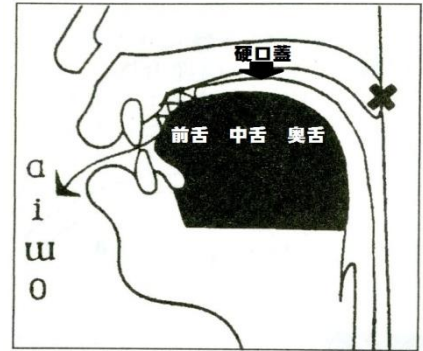
1 題材名 「シ」の音を正しく発音しよう

2 題材について

(1) 学習する音について

【シの正しい構音方法】

舌先は歯裏から引き離され、前舌を盛り上げ奥歯に接近させる。息を出し、その接近させた部分で摩擦させて〔ʃ〕の音になる。〔ʃ〕のあとに、「イ」〔i〕をつけると「シ」〔ʃi〕になる。



(2) A児の実態と目指す姿

A児は、自校通級2年男子である。入学時の構音検査で、イ列音全音において中舌化側音化構音が見られたため通級の対象となった。A児は入学時から現在まで約1年半の通級歴で、週2時間通級している。保護者は、A児が小さい時から難聴の姉2人をととてもよく慕っているため、姉たちの発音を真似して歪んだ発音になったのではないかと思っている。A児の聴力には異常は見られない。

現在A児は、教科書などを音読するときに「シ」の音が発音しにくいという困り感があり、「シ」の音をじょうずに言えるようになりたい。」という強い希望をもっている。

A児の日常会話では、「シ」の発音の際に「ヒ」に近い音で発音していることが多い。構音器官の機能検査をしたところ、舌全体の動きはよく、母音のイ音、ヒ音を発音することはできる。しかし、「シ」を発音した時の舌を観察すると、前舌が上がらず奥舌と硬口蓋の隙間が狭い状態であった。そのため、〔ʃ〕の摩擦音が出しづらいのではないかと考えられる。

A児は、正しい舌の構えが理解できるようになってきたが、自分で正しく舌を構えることは難しい。また、指導者の発音を聴き、単音での正誤弁別をすることはできるようになってきたが、自分の発音についての正誤弁別はまだ十分ではない。

A児は、毎時間のことばの学習に意欲的であるが、ねらいどおりの正しい音ができなかったり、できるまでに時間がかかったりすると、泣いて学習に取り組めなくなってしまうことがあった。しかし、一旦ことばの学習から離れ、興味のある身近な昆虫についての会話をしているうちに気持ちが落ち着き、学習に戻ることができた。

この実態を踏まえA児の目指す姿を次のように考えた。

- ① 「シ」音が日常的に正しく発音でき、相手が聞き取りやすい会話ができる。
- ② 自分の舌の様子を目と耳と触感でとらえて正しい音に直すことができる。

(3) A児の具体的な指導内容について

A児の目指す姿をもとにした具体的な指導内容を自立活動の区分に即して以下の表にした。

選定された項目		具体的な指導内容
健康の保持		<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい舌の構えや舌の力のコントロールがスムーズにできるように構音器官の機能訓練を行う。(舌の体そう)</li> <li>「シ」音の正しい構え方を習得するために、「ヒ」[ç]音から歯間を狭め、呼気を歯裏に当てて摩擦を作って [ʃ] 音 (シの風の音) をつくる。(シの音づくり、ストロー吹きで虫ゲット)</li> <li>無意味2、3音節の語頭・語尾・語中の順で「シ」の音を復唱し、正しく言えるようにする。(音のかんらん車)</li> <li>単語、短文の順で「シ」の音を復唱し、正しく言えるようにする。(単語・短文発音プリント)</li> <li>自分が発した音を注意して聴く耳を育てるためにタブレットで自分の発音を録画して耳と目で確認し、自己評価を行う。(自撮りチェック)</li> <li>単純な反復練習の際にゲームの要素を取り入れ、楽しみながら正しい構音が習得できるようにする。(ストロー吹きで虫ゲット、すごろく)</li> <li>即時評価をすることで、「できた」「わかった」という充実感を積み重ね、自分の発音に自信が持てるようにする。(指導記録用紙へのはなまるつけ、連絡ノート)</li> </ul>
心理的な安定	障害による学習上又は生活上の困難を克服する意欲に関すること。 【2-(3)】	
人間関係の形成	自己の理解と行動の調整に関すること。 【3-(3)】	
環境の把握	感覚や認知の特性への対応に関すること。 【4-(2)】	
身体の動き	作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。 【5-(5)】	
コミュニケーション	言語の受容と表出に関すること。 【6-(2)】	

## 1. 学習計画

学習段階	学習の目標	学習内容
1段階	<p>(1) 自分が発音する「イ」の音が正しいか判断できる。</p> <p>(2) 「イ」を含む単語や句・短文が自分で正しく発音できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>舌の体そう。</li> <li>「イ」を含む1つの単語で「イ」を正しく発音しているかチェックする。</li> <li>「イ」を含むいろいろな単語で「イ」を正しく発音しているかチェックする。(自撮りチェック)</li> <li>単語、短文の練習。(単語発音プリント)(すぐろく)</li> </ul>
2段階 (本時)	<p>(1) 自分が発音する「イ」の音が正しいか判断できる。</p> <p>(2) 「シ」の正しい舌の構えと呼吸の通し方がわかり、正しく発音できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>舌の体そう。</li> <li>「イ」の発音を聴き、誤り音に自分で気付いて直す。(自撮りチェック)</li> <li>「シ」音の正しい構え方を習得するために、「ヒ」[ç]音から歯間を狭め、呼吸を歯裏に当てて摩擦を作って [ʃ]音をつくる。(ストロー吹きで虫ゲット)</li> </ul>
3段階	<p>(1) 「シ」を含む無意味2、3音節や単語が正しく発音できる。</p> <p>(2) 会話の中で「イ」を正しく発音しているか確かめ、誤りがあれば直すことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>舌の体そう。</li> <li>無意味2、3音節での「シ」の練習(音のかんらん車)</li> <li>「シ」を含む単語で、先生に続いて練習、自分で練習(単語発音プリント)</li> <li>音読の中で正しく「イ」を発音しているか確認する。(自撮りチェック)</li> </ul>
4段階	<p>(1) 自分が発音する「シ」の音が正しいか判断できる。</p> <p>(2) 「シ」を含む短文が自分で正しく発音できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>舌の体そう。</li> <li>「シ」を含む1つの単語で「シ」を正しく発音しているかチェックする。</li> <li>「シ」を含むいろいろな単語で「シ」を正しく発音しているかチェックする。(自撮りチェック)</li> <li>短文を自分で練習。(短文発音プリント)(すぐろく)</li> </ul>
5段階	<p>(1)自分が発音する「シ」の音が正しいか判断できる。</p> <p>(2)「シ」を日常会話の中で正しく発音できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>舌の体そう。</li> <li>「シ」の発音を聴き、誤り音に自分で気付いて直す。(自撮りチェック)</li> <li>日常会話の中で正しく「シ」を発音しているか確認する。(自撮りチェック)</li> </ul>
6段階	<p>(1)「シ」を日常会話の中で正しく発音できるようにする。</p> <p>(2)音読の中で「シ」を含むことばが正しく言える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常会話の中で無意識に、習慣化して「シ」を使っているか確認する。(自撮りチェック)</li> <li>音読の中の「シ」の音を正しく発音しているか、確認する。(自撮りチェック)</li> </ul>

2. 本時の指導

(1) 本時の目標

「シ」の正しい舌の構え方と呼気の通し方を理解し、[ʃ]の音を出すことができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	留意点 (・) 評価 (☆)	教具等
つかむ・みとおす	<p>1 課題をつかむ (動機づけ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を想起する。</li> <li>・本時の学習のめあてと授業の流れを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導記録用紙を用いて本時の学習のめあてと授業の流れを示す。</li> </ul>	指導記録用紙
	<p>正しい舌の構えでシの風の音を出して、虫カードをゲットしよう！</p>		
	<p>2 舌の体そう (構音器官の機能訓練)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せんべいなめ</li> <li>・ボーロのせ</li> <li>・舌の出し入れ</li> <li>・舌の左右運動</li> <li>・舌の上下運動</li> <li>・舌じゃんけんのゲーとゲーの反対を行う。</li> <li>・舌の正中線作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舌の体そうを行い、舌を平らにし、前舌部・中舌部をやわらかくし、正中線に沿って呼気を出せるように促す。</li> <li>・目標回数まで繰り返し練習できたことをほめる。</li> </ul> <p>☆舌の形が平らになっている。</p> <p>☆「ゲー」と「ゲーの反対」の形にして前舌部・中舌部をやわらかくしている。</p> <p>☆正中線に沿って舌をくぼませる。</p>	<p>指導鏡</p> <p>ミルクせんべい</p> <p>たまごボーロ</p> <p>ラムネ (小)</p> <p>ポッキー</p>
ふかめる	<p>3 [イ]を正しく発音する。(母音指導)</p>	<p>☆口角を両側に引き、上下の前歯が4本見える。</p> <p>☆舌が横に広がって真ん中に隙間が見える。</p> <p>☆舌は動かない。</p> <p>☆真ん中から呼気(風)が出る。</p> <p>☆舌先は下歯茎の位置にある。</p> <p>☆「ヒ」の風の音が正しい構音で言える。</p> <p>☆音節構音時に単音が出せる。</p> <p>☆舌の奥の両端が上の奥歯についている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を忘れずに正しく構音できたことをほめる。</li> </ul>	<p>指導鏡</p> <p>ストロー</p>

	<p>4 「イ」の音自撮りチェック (発音指導)</p> <p>「イ」を含む単語を読んでいる様子を録画して、正しく発音できているか確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で誤り音に気付いて訂正する練習を繰り返す。気付かない場合は録画を確認して問い返し、気付きを促す。</li> <li>・自分で気付くことができたならばほめる。</li> </ul> <p>☆自分の発音をよく聴いて誤りに気付き、正しい構音に言い直している。</p>	<p>タブレット 指導鏡 ストロー 手鏡 ペンライト</p>
	<p>5 「シ」の正しい舌の構えと呼吸の通し方を理解して正しく構音する。(構音指導)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「シ」音の正しい構え方を習得するために、「ヒ」[ç]音から歯間を狭め、呼吸を歯裏に当てて摩擦を作って [ʃ] 音をつくる。</li> <li>・舌の正中線上にストローを置いて前舌部と上前歯で挟んで息を出して [ʃ] 音をつくる。(ストロー吹きで虫ゲット)</li> <li>・正しい [ʃ] 音が出せたらほめる。</li> </ul> <p>☆前舌を上げて奥舌と硬口蓋の隙間をつくって摩擦音の [ʃ] 音を出している。</p>	<p>指導鏡 手鏡 ストロー タブレット 虫ゲットカード</p>
<p>ふりかえる・まとめる</p>	<p>6 振り返りとまとめ</p> <p>今日のめあて「正しい舌の構えでシの風の音を出して、虫カードをゲットしよう！」ができたか振り返る。また、次の学習について確認する。</p>	<p>☆前舌を上げて奥舌と硬口蓋の隙間をつくって摩擦音の [ʃ] 音を出すことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの過程でも熱心に練習できたことをほめる。</li> <li>・本時の指導と次時の内容について、児童と保護者に伝える。</li> </ul>	<p>指導記録用紙 連絡ノート</p>

《引用文献》

研究紀要第 18 号「難聴・言語障害児の指導計画」－改訂版－（岩手県難聴言語障害教育研究会）

研究紀要第 19 号「発音指導の基礎知識」－構音器官と日本語の音声学について－

（岩手県難聴言語障害教育研究会）

構音指導の手引き

（盛岡市特別支援教育研究会難言部会）

構音障害の指導技法 音の出し方とそのプログラム 涌井 豊 著

（学苑社）

構音訓練のためのドリルブック改訂第 2 版 岡崎恵子・船山美奈子 編著 （協同医書出版社）

第 35 回岩手県難聴言語障がい教育研修会講座 B 2 資料

「発音に誤りがある幼児・児童の指導（3年以上）」

（陸前高田市立気仙小学校教諭 佐藤 司 先生）